

株式メモおよびその他のIR情報

株主メモ(株主のご案内)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主確定基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 ※期末配当のみとさせていただきます。	同事務取扱場所	東京都中央区八重洲2丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〈郵便物送付先〉 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〈電話照会先〉 0120-176-417(フリーダイヤル)
定時株主総会	毎年6月開催	公告方法	当社のホームページに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告します。
単元株式数	100株		
証券コード	6258		
上場金融商品取引所	大阪証券取引所 JASDAQ市場		

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

その他のIR情報

平田機工株式会社ホームページ

<http://www.hirata.co.jp>

IR情報

<http://www.hirata.co.jp/ir/>

2009年7月 当社ホームページのIR情報をリニューアルしました。個人投資家向けのページを新設し、当社の事業内容、業績の推移、あゆみなど様々な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

- IR情報に関するお問い合わせ先
平田機工株式会社 経営企画部 IR・広報室
- TEL **096-272-5558**
- FAX **096-272-3618**
- E-mail hirata_ir@hirata.co.jp

平田機工株式会社

本社
〒142-0041 東京都品川区戸越3丁目9-20
TEL.03-3786-1226 FAX.03-3786-1264

熊本本部
〒861-0198 熊本県熊本市植木町一木111
TEL.096-272-0555 FAX.096-272-7901

Hirata
The Global Production Engineering Company

第60期 第2四半期 HIRATA REPORT

平成22年4月1日～平成22年9月30日

平田機工株式会社

成長事業へのシフトやグローバルな営業活動をさらに強化してまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第60期第2四半期累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)の事業概況を以下のとおり、ご報告させていただきます。

当期間における世界経済は、各国の景気刺激策の効果などにより、緩やかな景気回復基調となりましたが、失業率の高止まりや金融システムに対する懸念など海外景気の見通しはまだ不透明であり、依然として厳しい状況で推移しました。

このような市場環境のもと、当社グループにおきましては、予定案件の受注および売上の遅れなどにより、当期間の連結売上高は、148億22百万円(前年同期比 11.7%減)となり、前年同期を下回る結果となりました。

事業分野別では、半導体分野において、市場の回復に伴い、半導体メーカーの設備投資が増加したことにより増収となり、物流機器および家電関連分野においても、前期より受注していましたタイヤおよび家電業界向けの設備を予定通り売上げ、増収となりました。一方、自動車分野においては、積極的な受注活動により北米向けの大型案件を受注しましたが、依然として厳しい国内市場の受注環境の影響を受け減収となり、FPD分野においては、国内での売上低調に加え、海外案件受注の遅れなどにより減収となりました。

利益面では、売上高の減少などにより、営業利益が1億37百万円(前年同期比 53.9%減)、経常利益は、54百万円(前年同期比 77.6%減)、四半期純利益は、3億98百万円で前年同期と比較して52.9%増益となりました。



代表取締役会長
平田 耕也

代表取締役社長
米田 康三

通期業績の見込みについて

当社は、平成22年11月5日に当第2四半期累計期間および通期業績予想の修正を発表しました。特に通期業績予想につきましては、受注残高が高い水準にあることに加え、更なる受注が見込まれているため、売上高および利益とも前回予想(平成22年5月12日発表)を上回る見込みであります。

当期の見通しにつきましては、海外景気の不透明感や急激な円高進行と景気刺激策の息切れなどにより、国内景気も回復局面から足踏み局面に入りつつあり、先行きに対し慎重な見方が広がっております。

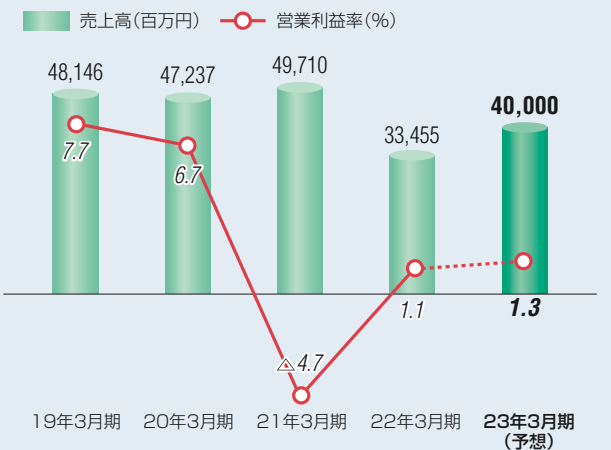
このような中、成長事業へのシフトやグローバルな営業活動を更に強化していくとともにローコストデザインの推進や生産革新運動などによるコスト競争力の強化、個別案件の原価管理の徹底による採算向上を図るなど安定した収益基盤を確立してまいります。

今後とも企業グループ全体の発展と持続的な成長のために、経営効率の向上と技術力の強化を図ってまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

■平成23年3月期 第2四半期
累計実績と通期業績予想(連結)

	第2四半期 累計実績	修正後 通期業績予想
売上高	148億円	400億円
営業利益	1.3億円	5億円
経常利益	0.5億円	3億円
四半期(当期)純利益	3.9億円	5億円
1株あたり四半期(当期)純利益	37.93円	47.59円
1株あたり配当金	0.00円	10.00円

■連結売上高・営業利益率推移



大型受注

GMからエンジン組立ラインの大型受注

2010年7月

当社は、米国自動車会社のGeneral Motors Corporationから新型エンジン組立ラインの大型案件を受注いたしました。今回の受注は、GM社が戦略的に開発を進める直噴エンジン技術と最先端の燃焼システムなどを採用した低燃費エンジンを生産するための組立ラインであり、受注額は約50億円です。同社が重点投資している北米工場の数力所に今後納入予定です。

環境貢献 自動車生産分野におけるHirataの取り組み

Hirataはハイブリッドカーや環境対応関連の生産設備も提供しています。

近年ではガソリンエンジン車用だけでなく、ハイブリッドカーなど環境対応車種関連の生産設備についても納入実績が拡大しています。それに伴い、当社ではお客様の製品生産工程においても環境負荷が低減できる生産設備の提供に努めています。

Hirata

〈ガソリン車〉

環境負荷を
低減する
生産設備も対応



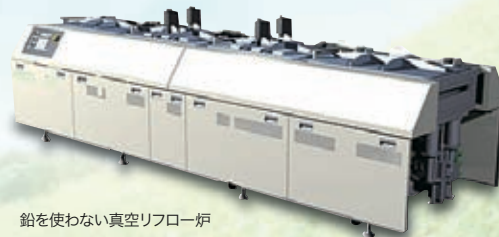
〈環境対応車〉

クリーンディーゼル車
電気自動車
ハイブリッド車



〈地球環境を考えた装置開発〉 環境にも人にもやさしい真空リフロー炉

リフローとはプリント配線基板上で電子部品を配置してから加熱するはんだ付けのことで、従来では環境負荷が高い鉛などを使用していました。当社はそれらを使用せず、人体への影響も少ない、鉛フリーはんだ用の真空はんだ付け装置を自動車メーカーと共同開発し、省エネルギーも実現しております。



鉛を使わない真空リフロー炉

グローバル人材育成

品質管理やアフターサービスの向上を目指して

当社は、グループ内の製品品質やアフターサービスの向上を目的とし、当社を中心としたグループ内の積極的な技術教育を行っています。特に経済成長を続ける中国市場において、現地生産・現地販売を確立するため、上海にある子会社平田機工自動化設備(上海)有限公司などで、技術だけでなくプロジェクトマネジメントなど総合的な管理方法などの教育に取り組んでいます。



グループ内の技術指導(上海)

地域・社会とともに

平田機工育英会 第五期奨学生が来社

2010年7月

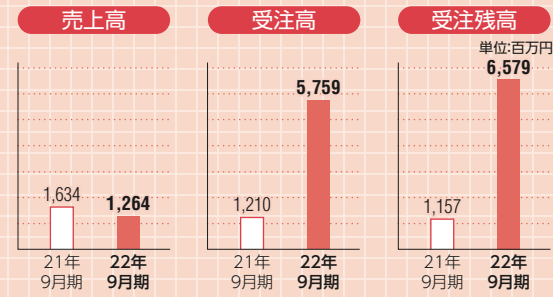
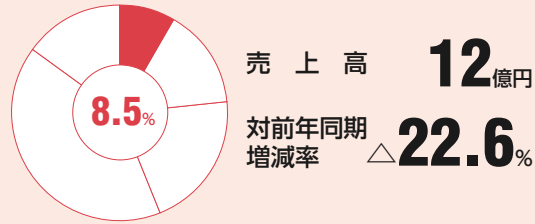
平田機工育英会奨学生に選ばれた熊本大学の中国人私費留学生5名と担当教授1名が、当社を表敬訪問されました。この平田機工育英会は、中国との友好関係の構築と有能な人材への支援を目的とし、当社創業60周年、設立55周年の記念事業として地元大学である熊本大学工学系の中国人私費留学生を対象として設立されました。当社が関わる地域・社会とのつながりを大切に、ともに成長・発展していきたいと願っています。



工場見学をする第五期奨学生のみなさん

自動車関連生産設備事業

エンジン、トランスミッションなどの自動車の駆動系主要部品をはじめ、制御用電子機器、車載用電子部品などの組立設備の製造・販売

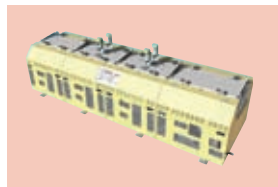


第60期 第2四半期実績

積極的な受注活動を展開し、北米向けの大型案件を受注しましたが、国内市場の設備投資については依然回復しておらず、また受注済みの大型案件がまだ売上げに至らず売上高は12億64百万円(前年同期比22.6%減)となりました。エコカー補助金制度の終了や円高によりメーカー各社の事業環境は不透明であり、引き続き厳しい受注環境ですが、国内外の市場において環境対応車種関連設備など営業活動も強化し、受注の拡大を図ります。



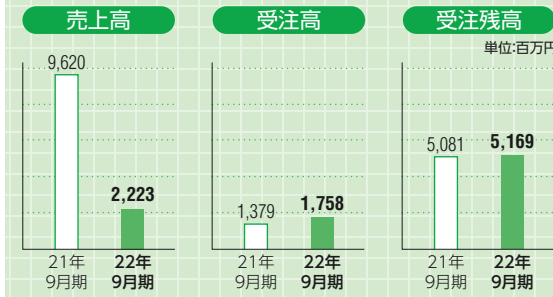
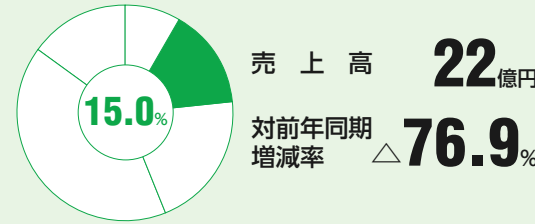
フレキシブルキャリア組立機



リフロー炉

FPD関連生産設備事業

液晶・PDP(プラズマ・ディスプレイ・パネル)のもととなるガラス基板を搬送するシステム、ガラス基板に感光剤を塗布する装置の製造・販売



第60期 第2四半期実績

国内での売上が低調であったことに加え、海外案件受注の遅れや、受注案件の小型化などにより、売上高は22億23百万円(前年同期比76.9%減)となりました。太陽電池関連事業においては、新たな製造装置開発により製品群を充実させ、売上拡大につなげていきます。



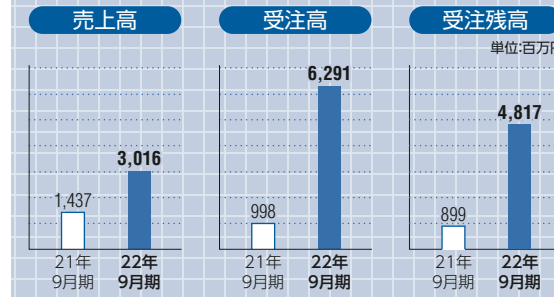
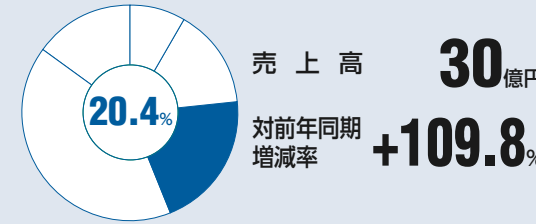
第10世代ガラス基板搬送ロボット



ソーラーモジュール組立装置

半導体関連生産設備事業

ロードポート、ウェーハ搬送ロボット、EFEM(ウェーハの処理を行うプロセス装置の前面にあり、ロードポートやロボットを組み込んだ装置)の製造・販売



第60期 第2四半期実績

半導体市場の回復により、半導体メーカーの設備投資が増加したことに加え、大型製造受託案件の売上計上などで、売上高は30億16百万円(前期比109.8%増)となりました。スマートフォンなど電子デバイスの販売の好調さを背景に市場の回復が続くものと見込まれており、今後は同分野における新規顧客の開拓と既存顧客内でのシェアを拡大させるため積極的に受注活動を展開していきます。



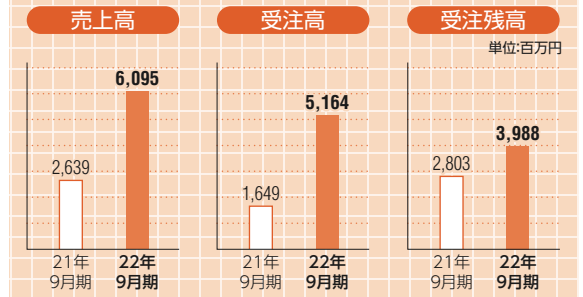
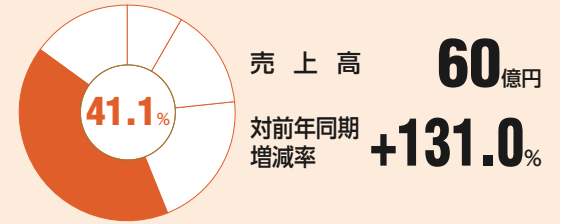
ロードポート



ウェーハ搬送ロボット

物流機器および家電関連生産設備事業

家電関連分野では、薄型テレビ、冷蔵庫などの自動組立設備、タイヤ関連分野では、タイヤ搬送機、タイヤ仕上げ機などを製造・販売



第60期 第2四半期実績

前期より受注しておりましたタイヤ業界向けの設備および薄型テレビなどの家電業界向け設備の売上を予定通り計上し、売上高は60億95百万円(前期比131.0%増)となりました。家電関連は引き続き新興国需要が増加するものと見込まれており、またタイヤ関連でも海外向けは新興国を中心に更なる成長が続くものと見込んでいます。



自動倉庫



精密機器自動組立設備

連結財務諸表(要約)

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 (21.9.30)	当第2四半期 連結会計期間末 (22.9.30)	前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (22.3.31)
【資産の部】			
流動資産	35,103	31,959	31,018
現金及び預金	11,338	7,487	10,121
受取手形及び売掛金	16,805	16,005	15,413
商品及び製品	192	267	158
仕掛品	4,417	5,659	3,301
原材料及び貯蔵品	322	383	304
繰延税金資産	1,406	1,591	1,473
その他	735	679	361
貸倒引当金	△ 114	△ 114	△ 115
固定資産	21,922	20,292	20,776
有形固定資産	16,566	15,849	16,115
建物及び構築物(純額)	5,075	4,650	4,851
土地	9,875	9,796	9,819
その他	1,614	1,402	1,444
無形固定資産	392	368	392
投資その他の資産	4,964	4,074	4,268
資産合計	57,026	52,252	51,794

ポイント

1 現金及び預金

現金及び預金は、仕入高、外注費などの支払いが増加した結果、前期末と比較して26億34百万円の減少となりました。

2 仕掛品

仕掛品は、生産高の増加により、前期末と比較して23億58百万円の増加となりました。

3 支払手形及び買掛金

支払手形及び買掛金は、生産高の増加に伴い、仕入高・外注費が増加した結果、前期末と比較して3億64百万円の増加となりました。

4 有利子負債

有利子負債は、生産高の増加に伴い、運転資金の借入を増やした結果、前期末と比較して5億78百万円の増加となりました。

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 (21.9.30)	当第2四半期 連結会計期間末 (22.9.30)	前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (22.3.31)
【負債の部】			
流動負債	26,055	20,257	22,313
支払手形及び買掛金	3,786	6,718	6,355
短期借入金	12,316	4,896	5,306
一年以内返済予定の長期借入金	5,170	5,163	6,638
一年以内償還予定の社債	850	800	850
賞与引当金	71	80	45
その他	3,859	2,598	3,116
固定負債	13,936	15,347	12,846
社債	2,425	1,625	2,000
長期借入金	6,127	8,464	5,575
退職給付引当金	1,849	1,622	1,718
その他	3,533	3,635	3,552
負債合計	39,991	35,605	35,159
【純資産の部】			
株主資本	12,936	13,035	12,742
資本金	2,633	2,633	2,633
資本剰余金	2,322	2,322	2,322
利益剰余金	8,222	8,322	8,029
自己株式	△ 243	△ 243	△ 243
評価・換算差額等	3,826	3,371	3,624
少数株主持分	272	239	267
純資産合計	17,034	16,646	16,635
負債純資産合計	57,026	52,252	51,794

■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自 21.4.1 至 21.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (自 22.4.1 至 22.9.30)	前 期 (自 21.4.1 至 22.3.31)
売上高	16,785	14,822	33,455
売上原価	14,193	12,282	28,375
売上総利益	2,592	2,539	5,079
販売費及び一般管理費	2,294	2,402	4,715
営業利益	297	137	364
営業外収益	142	82	182
営業外費用	198	165	365
経常利益	241	54	180
特別利益	612	207	1,193
特別損失	40	6	187
税金等調整前 四半期(当期)純利益	814	254	1,187
法人税等	545	△ 116	1,138
少数株主利益	7	△ 27	4
四半期(当期)純利益	260	398	43

ポイント

5 売上高

L&M分野や、前期末より受注増加の傾向にあった半導体分野においては、増収となったものの、世界的な設備投資の手控えの影響を受けて、自動車、FPD分野は受注、売上の遅れによって減収となり、売上高は、前年同期と比較して19億63百万円の減少となりました。

6 営業利益

コスト低減および固定費圧縮などにより、原価率は低下したものの、売上高の減少、販売費及び一般管理費の増加などにより、営業利益は、前年同期と比較して1億60百万円の減少となりました。

9 営業活動による キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは、税金等調整前四半期純利益2億54百万円に対し、たな卸資産の増加26億45百万円などにより、30億52百万円の支出となりました。

10 投資活動による キャッシュフロー

投資活動によるキャッシュフローは、有形固定資産の取得による支出55百万円などにより、46百万円の支出となりました。

■ 連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自 21.4.1 至 21.9.30)	当第2四半期 連結累計期間 (自 22.4.1 至 22.9.30)	前 期 (自 21.4.1 至 22.3.31)
営業活動による キャッシュフロー	4,099	△ 3,052	9,656
投資活動による キャッシュフロー	△ 149	△ 46	△ 329
財務活動による キャッシュフロー	△ 3,783	529	△ 10,340
現金及び現金同等物に 係る換算差額	54	△ 65	18
現金及び現金同等物の 増加額又は減少額(△)	221	△ 2,634	△ 994
現金及び現金同等物の 期首残高	11,116	10,121	11,116
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	11,338	7,487	10,121

7 経常利益

経常利益は、売上高の減少および営業利益の減少などにより、前年同期と比較して1億87百万円の減少となりました。

8 特別利益

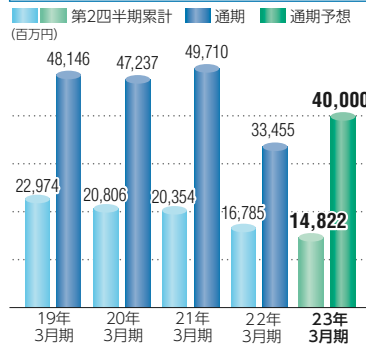
特別利益は、前期に貸倒引当処理をした売掛金の入金などにより、前年同期と比較して、3億96百万円減少しました。

11 財務活動による キャッシュフロー

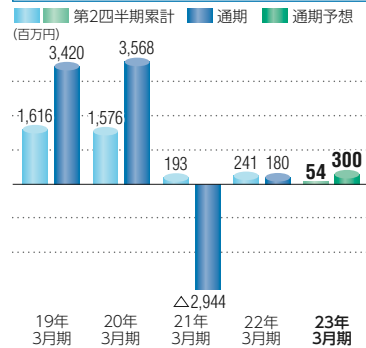
財務活動によるキャッシュフローは、短期借入金の減少3億27百万円、長期借入れによる収入55億円、長期借入金の返済による支出40億86百万円、

社債の償還による支出4億25百万円などにより、5億29百万円の支出となりました。

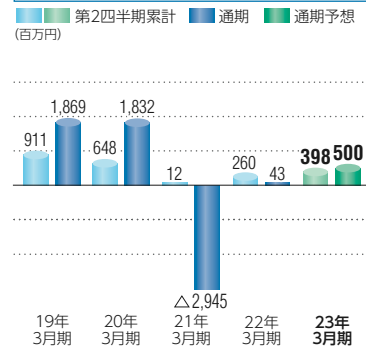
売上高



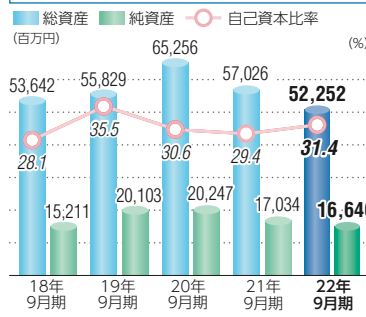
経常利益(損失)



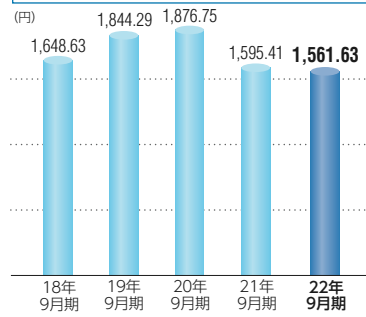
四半期(当期)純利益(損失)



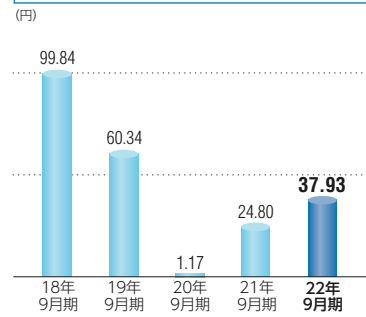
総資産/純資産



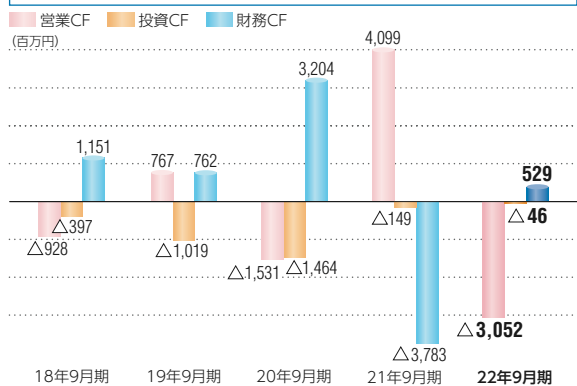
1株あたり純資産額



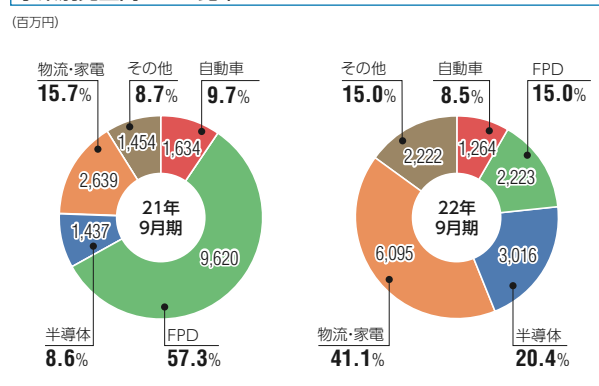
1株あたり四半期純利益



キャッシュ・フロー



事業別売上高および比率



会社概要 (平成22年9月30日現在)

会社名 平田機工株式会社
 会社設立 1951年12月29日
 資本金 2,633百万円
 従業員数 1,821名(連結 平成22年9月30日現在)
 業務内容 各種生産システム、産業用ロボットおよび物流関連機器等の製造ならびに販売
 本社所在地 東京都品川区戸越3丁目9番20号

役員 代表取締役会長 平田 耕也 執行役員 堤 春生
 代表取締役社長 米田 康三 執行役員 藤原 五男
 取締役副社長執行役員 平田雄一郎 執行役員 藤本 勝
 取締役専務執行役員 橋 勝義 執行役員 平賀 靖英
 取締役執行役員 坂本 広徳 執行役員 大田 謙次
 取締役執行役員 松永 盛文
 取締役執行役員 田中 敏治
 取締役 平田 宏之
 常勤監査役 小川 克真
 監査役 村田 邦夫
 監査役 山田 昭
 監査役 中村 洋一

株式の状況 (平成22年9月30日現在)

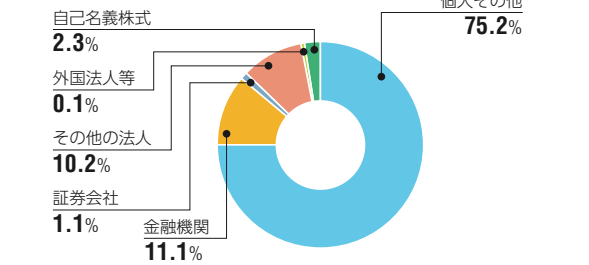
- 発行可能株式総数 37,000,000 株
- 発行済株式総数 10,756,090 株
- 株主数 2,796 名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
平田 耕也	994,462	9.25
平田機工社員持株会	822,810	7.65
平田 紀生	575,162	5.35
SMC株式会社	500,000	4.65
平田 宏之	464,972	4.32
平田 満	457,629	4.25
株式会社肥後銀行	456,000	4.24
平田 雄一郎	401,900	3.74
平田 滋夫	363,044	3.38
有限会社コンパス	224,000	2.08

上記のほか、当社が保有している自己株式が249,387株あります。

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況

